

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実践技術 (保育デザイン)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 河村 和代	当該科目に関する実務 経験 保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間(1単位)	幼稚園教諭専攻科 後期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい及び概要] ・幼児教育・保育に関する基本原理・内容を理解する。基礎的内容を土台として、実践的な内容となる、遊びや活動における指導や支援を考察していく。子どもの興味や関心を高め、自ら考え行動することができる力を育むための教育・保育の方法を検討していくことで、保育者としての資質・能力を育む。 幼児教育・保育の現代にいたるまでの歴史的変遷を理解し、現代社会の幼児教育・保育現場に必要な子ども理解のために必要な視点を多面的に考察する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1・本学習の全体概要を理解し、自分自身の被保育・教育体験を振り返り、保育・教育のイメージや自らの保育観・教育観を表現する。 2・現代社会の子どもをめぐる社会的な状況とその問題点、ならびに、保育者の位置づけを理解する。 3・「幼稚園教育要領」の歴史的変遷と各特徴を理解する。 4・幼児の教育方法と関連する歴史的人物の果たした役割を整理し、理解する (1) ①フレーベル②ペスタロッチ③モンテッソーリ 5・幼児の教育方法と関連する歴史的人物の果たした役割を整理し、理解する (2) ④倉橋 惣三 ③東 基吉 ④赤沢 6・保育の実践を創る「PDCA サイクル」について考える 7・保育者の「省察」を行う手立てについてを理解する 8・幼児教育方法を支える活動①「関係」 9・幼児教育方法を支える活動②「遊び」 10・幼児教育方法を支える活動③「生活」 11・子どもをめぐる現代的課題「食育」事例を通して学ぶ 12・子どもをめぐる現代的課題「障がい児保育」 13・子どもをめぐる現代的課題「家庭との連携」「子育て支援」 14・保育教育実践を考える (非認知能力を育むために)「遊び活動」 15・保育教育実践を考える (非認知能力を育むために)「絵本読み聞かせ」			
[使用テキスト] ・「保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法」北大路書房 ・「幼稚園教育要領」(平成29年告示)文部科学省(フレーベル館)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			